

【史料紹介】

三河国八名郡岡部藩半原陣屋御用状留（十一）

日本史学専攻近世近現代史ゼミ

前号に引き続き本史料を翻刻紹介する。

幕府からの無宿者の取り計らい方の問い合わせ書に対し、半原陣屋は藩江戸屋敷に対し囲や番小屋等の普請を申請している。ただし番をする足軽・中間の雇用や番小屋の勝手道具については、実際に引渡人がいれば、その時に必用品を取調べ、問い合わせた上で、買い上げる等それぞれ取り計らい、その他都合の事もあれば、問い合わせるといふ。その普請も、引渡人が有る無し次第で取り掛かるつもりであり、まずは見積もりだけするという。またこれと合わせてか、大破した牢屋の新規建替ができなければ、前述の囲が完成する前は特に警護が手薄になることを述べた上で、この普請の見積もり伺書、陣屋内に新規に建てる供部屋と、台所や高橋忠右衛門役宅に附属する薪小屋一棟を新規に建てる見積もり伺書を送っている。

また藩主の家督相続Ⅱ代替わりにより、半原陣屋も含めた家中へ新たに家中触が出され、合わせて料理・酒料等が

下されている。この下され物は家中だけではなく、村々の庄屋・組頭・惣百姓へ酒料が、陣屋出入りの有力御用達商人と思われる浅見与兵衛には陣屋役人と同様料理・酒・吸物等が下され、その他御用働一人に銀一匁五分宛、御金用勤一人に銀一匁宛が下されている。また家督相続に関わってか、奉公人に加増や役職新規任命等も行われた。

本史料は、荻莊一郎・城徹・角谷健太郎・田浦颯太・寺西祐力・西脇奈津子・馬場瑞季・林那緒・松島里奈・六鹿竣介・吉田有輝が史料翻刻と説明文執筆のための資料調査・草稿作成を行い、史料翻刻の点検および説明文執筆のための草稿作成のとりまとめとその最終執筆を神谷智が行った。

卯三番

去月九日付式番御用状到来致拜見候。如仰改年之御慶不可有尺期御座候。先以

殿様益御機嫌能被成御超歳、恐悦御同意奉存候。當御領中御陣屋向都而相替儀無御座候。

一、從是差立候旧臘拾七番^并當卯^并壹番御用状追々相達、被成御披見、貴報被仰聞候趣致承知候。事^者濟候義^者再貴報致文略候。

一、右便得貴意候趣、御年寄衆^江可被仰伸義^也ハ、夫々被仰述被下候由。

一、伺書^并證書類其外御返却物、左之通。

一、下金四百八拾四両三分三朱差出證文

壹通

一、浅見与兵衛^并御消印濟都合

七通

一、右同人^并戻米切手同断

三十六枚

一、御用働御金用勤之者^并五ヶ年御割下戻證文同断

拾通

一、高札場御修覆御入用御勘定組何書

壹通

一、賀茂村大川通御普請御入用右同断

壹通

一、御用御金用其外^江被下物何書

壹冊

一、當御陣屋御奉公人^江御褒美被下何書

壹通

一、御積金之内御借戻金證文御證印濟

式通

一、同古證文御消印濟

三通

一、賀茂村林徳左衛門・林平八^江御預金證文

壹通

一、高橋忠右衛門受取方仕出書

壹通

右之書類御下知書御證印御附札御消印等、夫々御調御返却被下候由。

一、秋葉山御札^者例之通取計、御地^江差立可申旨致承知候。

一、先便差出候帳外^并欠落無宿もの御引渡之節取計方御問合書、御熟覽被成御承知、御内伺之上、右伺書^江番付御下ケ

札ヲ以、貴報^者被仰下候間、右書面^{ニテ}承知可致旨致承知候。

一、公儀^并御手前御精進日御書付壹冊、御年寄衆^ハ御渡被成候^ニ付被差遣候間、宜取計可申旨致承知候。

右^者去月九日付式番御用状貴報^ニ御座候。

一、前条高橋忠右衛門受取方仕出書之儀、御封落^ニ相成候哉、御用状得^与相調候得共、見え不申候間、乍御面倒今一應御調、次便御遣し可被下候。外書類御入記之通受取申候。

一、前条御用働其外へ被下物伺書御聞濟之御證印致落手、則例之通取計、御下知之趣を以銘々相渡候処、何れも難有

仕合奉存候旨申之、別段為御札罷出申候。此段得貴意候。

一、前条當方御奉公人^江御褒美被下伺書、御附札濟致落手、則御下知之趣ヲ以銘々^江相渡候処、冥加至極難有仕合奉存候旨、拙者共迄御札申出候。此段御承知可被下候。

一、前条秋葉山^江御足輕使を以、例之通御初穂金百疋^并小札料鳥目百五拾四銅致奉納、^候大小御札到来^二付、則小札百五拾枚今便御賄中^江向差立申候。左様御承知可被下候。

一、前条帳外其外無宿もの取計方御問合書^并御下札共致落手、得^与熟覽致承知候。依之^并困番小屋等御普請致目論見、右御入用大積伺書老冊、龜絵圖相添、今便致進達候。御落手宜御取計可被下候。番足輕中間御抱入、其外番小屋勝手道具等之義ハ、追^而御引渡人御坐候ハ、其節入用之品取調、御問合之上、御買上等夫々取計、其外不都合之事も御座候ハ、追々御問合可得貴意候。尤御普請之儀も、御地御引渡人有無之模様次第取掛候積^二而、先大積丈いたし置候心得^二御座候。左様御承知可被下候。

一、山本甚兵衛儀、去月七日當地致出立候間、定^而道中無滯御地着致候事^与奉存候。其節御問合可申積致相談置候當方牢屋大破相成候に付、是非々新規建替相成不申^而者、前条^并困出来前、別^而御手薄^二付、右御普請目論見御入用大積伺書老冊、且又○御陣屋内供部屋新規出来目論見御入用大積伺書老冊、御臺所^并高橋忠右衛門御役宅付薪小屋兩所^二棟^二新規出来御入用大積伺書老冊とも都合三冊、今便致進達候間、御落手

(付札)「○御陣屋内供部や新規出来、同御臺所^并高橋忠右衛門御役宅付薪小屋兩所^二棟^二新規出来大積伺書老冊都合三冊、今便致進達候間、御落手」

御披見之上、宜御取計可被下候。右委細之儀^著山本甚兵衛分御承知可被下候。

一、公儀^并御手前様^御精進日御書付之儀、例之通當御陣屋詰之面々^江相觸申候。

一、御地御用板木類^并山石等追々御買入取計申候。猶追^而致津出候ハ、委細可得貴意候。

一、當方御雜用御不足^二付、淺見与兵衛^ハ先日中金三拾兩御借入取計申候。右^二付證文^壹通写相添、為御調印今便致進達候。御落手宜御取計可被下候。

一、右之通相認候処、去ル六日付三番御用状到来致拜見候。先以

殿様益御機嫌能被成御座、恐悅御同意奉存候。

一、從是差立候去月三日付式番御用状相達、被成御披見、貴報被仰聞候趣致承知候。事濟候義ハ再貴報致文略候。

一、右便得貴意候山本甚兵衛儀、道中無滯日積通去月十三日御地^江致着候^二付、為心得被仰聞承知致候。

一、去々月廿六日當表津出し致候諸目琉球式百枚・琉球五十枚・家根板四十式箇共無滯御地へ着岸いたし候由被仰下致承知候。

一、洞雲寺御茶湯料御勘定組伺書^冊、御伺御證印濟^二付、御返却被下致落手候。

一、當表御奉公人・小役人・御足輕等御加増、且御抱入役替伺書差立候処、御落手御附札濟被遣之致落手候。

一、淺見与兵衛^ハ御雜用御借入金五十兩^壹通御證印、鶴飼寫村新平^壹御借入金書替引替濟古證文^壹通、御年寄衆御消印濟^二付、被遣之致落手候。

一、下宇利・半原両村之内田地溝敷引高減米伺書^冊、是又御伺濟^二付、御返却被下致落手候。

一、殿様御家督濟^二付御條目写^并御祝儀^為御家中一同下々迄御料理被下、其外之向々^江も右被下之儀^二付御書付^冊、御年寄衆^ハ御渡被成候^二付、被遣之候間、落手宜取計可申旨致承知候。

一、先便中宇利村清吉儀、老衰_ニ付庄屋役難相勤、退役願書差出候_ニ付、願之通庄屋役御免被成下、右_ニ付_{而者} 同人悴清四郎へ庄屋本役被仰付度旨相伺候処、御年寄衆被仰上御聞濟_ニ付、宜取計可申旨被仰聞致承知候。

一、右同村之儀、一体庄屋役三人之村方_ニ付、當外_高一_{而者}人庄屋出来候様致度、右_ニ付_{而者} 同村百姓孫平_与申者至極実体成者_ニ付、同人へ庄屋役被仰付度旨相伺候処、御年寄衆御聞濟_ニ付、宜取計可申旨被仰下致承知候。

一、高橋忠右衛門請取方仕出帳先便御差立可被成候処、御封落_ニ付、今便被遣之落手致し候。右御仕出之通相心得可申候。右_者 去月三日付式番御用状貴報御座候。御入札之通受取申候。

一、前条御奉公人御加増進席_并御抱入等之義、御伺濟之趣被仰聞候_ニ付、則安形_忠彦_藏兵衛儀、御徒士席被仰付、金貳百疋御加増、安形彦兵衛義地方兼帯被仰付、金百疋壹人口御加増、安形直藏義小役人格御作事方被成下、浅井源作義小役人格山方下役見習被仰付、金百疋御加増、郷方御足輕中村半七悴松藏義金壹両貳分壹人口、郷方御足輕_ニ御抱入等之義_{庶御付方之義}伺書忝通、御下知之趣を以夫々申渡候処、冥加至極難有仕合奉存候旨、銘々別段拙者共迄御礼申出候義_ニ御座候。此段御承知可被下候。

〔願人安形熊五郎先代_(下札)〕

願人安形熊五郎祖父忠藏_并願人安形勝太郎祖父彦兵衛・同祖父直藏進席加増之件

一、前条

殿様御家督被為濟候_ニ付、御條目之趣村々庄屋・組頭・百姓代壹人つ、呼出_{○前又右御條目等忝通つ、村々江相渡}、逐一申渡、○連印之請書申付、今便致進達候。御落手之上宜御取計可被下候。

一、殿様御家督被為濟候_ニ付、為御祝義當御陣屋一同下々迄御料理御酒料被成下、_{候御書付之通り取計、拙者共頂戴仕、難有仕合奉存候。}其外向々_{江も}右被下方之儀、御書_{右ニ付御陣屋詰之}

付通夫々頂戴為仕候処、一同難有仕合奉存候旨御礼申出候。尤右被^一下之内、^二村々庄屋・組頭・惣百姓へ御

酒料被成下度、^{換二付}員数庄屋・組頭・百姓代共、^{呼出し御下知之趣を以申渡夫々相渡し候所、冥加至極難有仕合奉存候旨申之別段為御礼申出候則△}請書連印申付、是又今便致進達候間、御落手宜御取計可被下候。

一、浅見与兵衛儀^者、御陣屋諸士同様、御料理御酒御吸物等被成下候。外御用働^江人、銀^江壹匁五分つ、御金用勤^紙■

壹人、銀^江壹匁つ、代料^二被成下候処、一同難有仕合奉存候旨御礼申出候。右^二付別紙^江請書連印壹通、是又致進達

候間、御落手宜御取計可被下候。

一、前条御伺濟之趣被仰聞候^二付、中宇利村清吉儀、願之通庄屋役御免被成下、悴清四郎^江庄屋本役被仰付候段、御下知之趣を以申渡候処、難有仕合奉存候旨申之、別段御礼申出候。

一、右同村百姓孫平義、是又御伺濟之趣被仰聞候間呼出し、庄屋役被仰付候段申渡候處、難有仕合奉存候旨、別段御礼申出候。

右之段為可得貴意、如此御座候。以上。

卯三月 高橋 橋本

石川殿

入記

一、^并番小屋御普請大積伺書

壹冊

一、右同断龕繪圖

壹枚

一、牢屋新規建替大積伺書

壹冊

三河国八名郡岡部藩半原陣屋御用状留(十二)

一、御陣屋内供部や高橋忠右衛門御役宅付薪小屋等新規大積伺書

壹冊

一、浅見与兵衛の金三拾両御借入證文写共

壹通
壹冊

一、御條目讀渡請書

壹通

一、村々へ御酒料被下請書

壹通

一、御用働・御金用勤之者同断請取書

壹通

一、御自分様へ拙者共の内状

壹封